

自ら学び、主体的に考える情報モラル教育の在り方

—総合的な学習の時間における探究的な学習を通して—

情報教育チーム

《研究の要旨》

情報モラル教育は各学校において継続的に行われているが、生徒のインターネット利用に関するトラブルは増加傾向にある。この状況を解決するには、情報モラル教育の授業を、これまでの講義を聞くだけの受動的な学習から、生徒が自ら問題を解決していく主体的な学習に転換していく必要があると考えた。そこで、総合的な学習の時間の中で情報モラルを課題として設定し、探究的な学習を通して生徒の断片化した知識に有機的なつながりをもたせ、インターネット利用に関する知識の定着と情報モラルの向上を目指す授業実践を行った。

I 研究の趣旨

現代社会において、ほぼすべての児童生徒が何らかの形でインターネットを利用している。また、SNS等による被害の低年齢化も進んでおり、情報モラルの指導の重要性は高まる一方である。

当センター情報教育チームで今年度実施した、「福島県の情報教育の実態等に関する調査」(以下、「情報教育の実態調査」)によると、本県中学校において、情報モラル教育を「指導計画を基に計画的に指導した」と回答した学校は、74.4%であった。多くの学校で、情報モラル教育を課題としてとらえ、教育課程に位置付けていることがうかがえる。

しかし、情報モラル教育に計画的に取り組んでいる学校が多いにもかかわらず、SNSに関わるトラブルやスマートフォン等の長時間使用等、インターネット利用に関するトラブルは増加傾向にある(図1)。

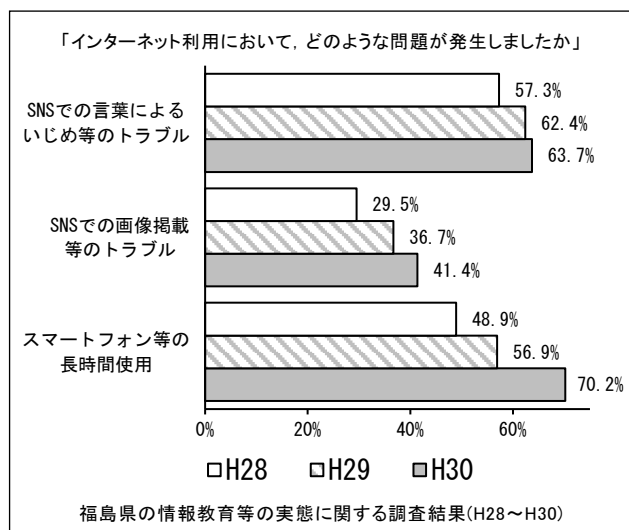


図1 情報モラルに関するトラブルの発生状況

「情報モラルの指導時間」に関する回答では、中学校全体で「1~4時間」が66.8%であった。計画的に取り組んでいるが、年間を通して指導時間を十分に確保できていない現状があることが分かった。また、情報モラル教育を行

う際、「外部講師を活用した」と回答したのは、中学校全体で60.4%であった。さらに、「情報モラル教育をどの時間に指導したか」に関する回答では、「技術科」が84.5%だった。このことから、情報モラルの授業は、教科・領域単体や外部講師による講義型で学習している場合が多いと考えられる。

これらの「情報教育の実態調査」の結果を踏まえて、生徒のインターネット利用に関するトラブルが増加傾向にあるのは、生徒のインターネット利用に関する知識が断片化していることが一因となっているのではないかと考えた(図2)。講義を聞くだけの受動的な学習による、断片化している知識を有機的につなげ、生徒が自ら問題を解決していく主体的な学習への転換と、学校教育全体で体系的に指導する必要があると考え、本主題を設定した。

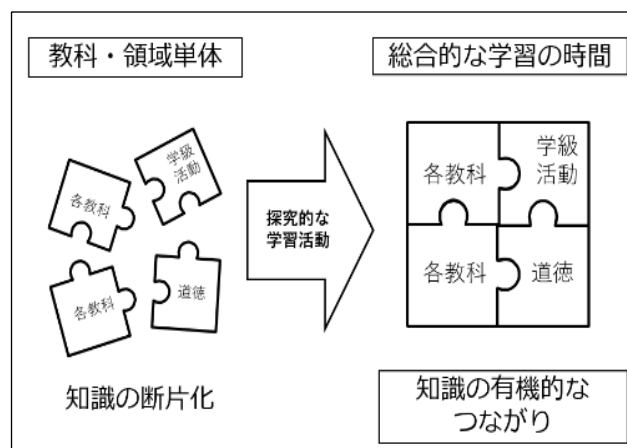


図2 知識が有機的につながるイメージ

さらに、生徒の知識を有機的につなげ、行動変容を促すためには、探究的な学習を通して知識を定着させていくことが有効ではないかと考え、情報モラルを現代的な諸課題の一つととらえて、総合的な学習の時間の課題に設定することとした。次期中学校学習指導要領(平成29年告示)では、総合的な学習の時間の目標及び内容は、図3のように示されている。情報モラルは指導要領に示されている探究課題のすべてに対応できる内容であり、総合的な学習の

時間の課題にふさわしいと考えられる。

次期中学校学習指導要領（平成29年告示）
第4章 総合的な学習の時間
第2 各学校において定める目標及び内容
(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定すること。

図3 「総合的な学習の時間」の目標及び内容（抜粋）

以上のことから、総合的な学習の時間に情報モラルについて、自ら学び、主体的に考え、発信する探究的な学習を通して、生徒の断片化したインターネット利用に関する知識に有機的なつながりをもたせ、インターネット利用に関する知識の定着と情報モラルの向上を目指すこととした。そして、研究の成果を情報モラルの授業モデルとして県内に示すことで、本県の情報モラル教育の質的な改善に寄与することを目指した。

II 研究の内容

1 研究内容・方法

研究協力校2校で授業実践を行った。

(1) 総合的な学習の時間における全体計画の作成

総合的な学習の時間における全体計画については、各研究協力校が実態に即した形で作成した。そのため、指導時間が確保でき、学校全体で体系的に情報モラルの指導に取り組む体制も整えることができた。

福島第四中学校では、「課題解決能力・発信力を高める総合的な学習の時間」を総合的な学習の時間の主題に設定し、総時数20時間で学習を進めた（図4）。昨年度も総合的な学習の時間に情報モラルを探究課題に設定し、授業実践を行っているため、全体計画もスムーズに作成できた。

「課題解決能力・発信力を高める総合的な学習の時間」全体計画
福島第四中学校 第1学年

1 目的

(1) スマートフォン、SNS等についての学習を通して、インターネットリテラシーを高めるとともに、インターネット利用社会における現在から未来への課題を見つけ、自分たちの生活の利便性と安全性の双方を高めようとする意識を高める。

(2) 自分たちで見つけた課題について、自分たちで解決の方策を探る過程を通じて、課題解決能力の育成と発信力の向上を図る。

(3) 学区内の小中高の連携推進を図り、地域社会に貢献する中学生の在り方について考えさせる。

図4 総合的な学習の時間全体計画（目的）

石川中学校では、「総合的な学習の時間における情報モラルに関する学習」を主題とし、情報モラルを軸に教科横断的に、総時数23時間で学習を進めた（図5）。

中学校に入学したことを機に、スマートフォン等の情報機器端末を所持した生徒も多く、早い段階で情報モラルについて学ばせたいということと、総合的な学習の時間で得られた成果の発信を小中連携事業の中で実施することから、第1学年で授業実践を行うこととした。

「総合的な学習の時間における情報モラルに関する学習」全体計画
石川中学校 第1学年

1 ねらい

(1) スマートフォン、タブレット等の情報機器を利用する際の留意点等、情報モラルに関する学習を通して、生徒一人一人がこれからの情報化社会を生きていく上でのリテラシーの向上を図る。

(2) 情報モラルに関する基礎的・基本的な内容について学習することで課題意識を高め、小学校第6学年を対象とした情報モラルに関する発表会を通して理解力を深めるとともに、実践的な能力を養う。

(3) 国語や技術の時間との連携を図り、教科横断的に学習を進めるとともに、調べ学習やその結果のまとめ、発表に向けた準備、そして発表といった情報収集・処理・判断・発信のプロセスを経ることで生徒の問題解決能力や情報活用能力の向上を図る。

図5 総合的な学習の時間全体計画（ねらい）

(2) 総合的な学習の時間における授業構想

① 探究課題を解決する一連の単元構想

総合的な学習の時間で、情報モラルを探究的に学習していく過程で、「課題の設定」から「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」まで、インプットからアウトプットまでの一連の学習のスパイラルを繰り返し、探究的な学習の繰り返しが発展的な学習となるように、それぞれの講座に落とし込んだ（図6）。

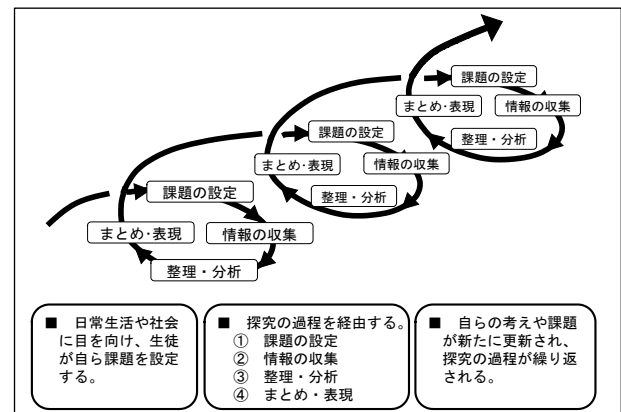


図6 探究的な学習となる単元構想

② 生徒の視野を広げる講義・ワークショップ

生徒は自分たちのインターネット利用について、様々な課題があることは十分理解している。しかし、自分事とし

てとらえることができず、近視眼的である。そこで、情報モラルの内容に加えて、AIなどの技術革新と職業の変化や生活に密着したインターネット社会の現実についての内容も学び、視野を広げ、問いを見いだす場面を設定した。

さらに、講義で学んだ内容を自分事としてとらえるためにワークショップを取り入れ、問題解決型の学びへ転換を図った。

③ ワークシートの工夫

毎回の講義でワークシートに記入することが、「課題の設定」から「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」までの一連の学習のスパイラルにつながるようワークシートを構成した。

(3) 探究的な学習となる授業構想

5月から6月にかけて、情報モラルに関する新たな知識の習得と視野の広がりを目指すとした講義とワークショップについては、教育センターが関わった。7月以降は、研究協力校の全体計画を基に情報モラルを軸とした探究的な学習を進めることとした。その際、一つ一つの講座や調べ学習の取組において「課題の設定」から「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」までの一連の学習のスパイラルが繰り返されるように授業を構想した(図7)。

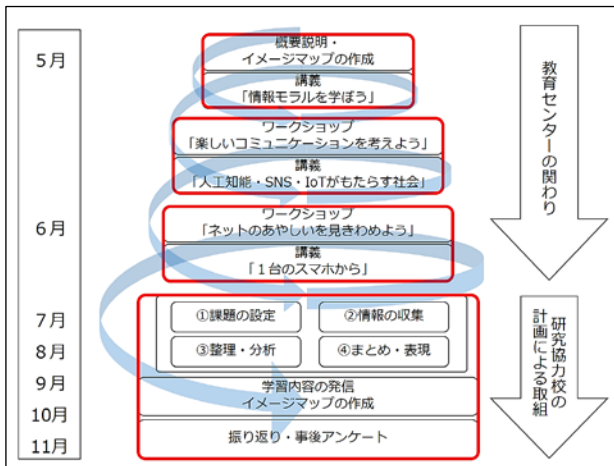


図7 探究的な学習となる授業構想

(4) 地域・保護者との連携

① 学習内容の共有

生徒が情報モラルについての学習内容をアウトプットする場として、学習内容を保護者に伝え保護者からコメントをもらう活動を取り入れた。学習内容の定着と、生徒と保護者が情報モラルについて情報を共有する機会を設定した。

② 中高連携事業の推進

福島第四中学校では、中学校と高等学校の連携事業として、隣接する福島高等学校の生徒から、調べ学習の進め方についてアドバイスを受ける機会を設けた。

③ 総合的な学習の時間での情報発信

単元の最終的な「まとめ・表現」として、学区内の小

学校第6学年を対象に、情報モラルについての学習成果を発表する場を設けた。

(5) 生徒の変容の見取り

総合的な学習の時間の最初と最後に、生徒にイメージマップを作成させ、スマートフォンやインターネット利用に関する知識の量や考え方や、その知識の有機的なつながりについての変容を見取ることとした。また、生徒の情報機器端末との関わり方についての行動変容は、振り返りシートの記述内容から見取ることとした。

III 研究の実際

1 教育センターの関わり

探究的な学習を進める中で、教育センターの関わった講座内容は以下のとおりである。

(1) 第1回情報モラル講座

① 生徒の実態把握

生徒のスマートフォンやインターネット利用に関する知識の量や質がどのような状況にあるのか、実態を把握するために、イメージマップを作成させた(図8)。イメージマップに書かれた言葉の数を集計したところ、福島四中の平均が14.3個、石川中の平均が12.1個であった。

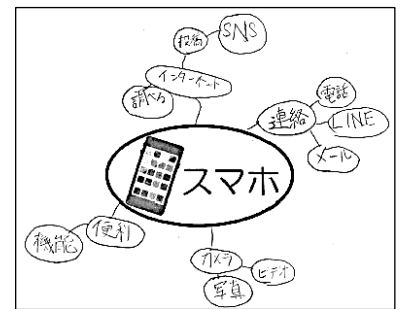


図8 イメージマップ

言葉の数が少なく、言葉の広がりも不十分で、インターネット利用に関する知識が断片化されているイメージマップが数多く見られた。このような状態では、実際にインターネットを使用する際の様々な意思決定の場面で、望ましい行動選択をすることは難しいと考えられる。

② 第1回講義「情報モラルを学ぼう」

講義の目標と内容は、以下のとおりである。

目標	自分と情報機器との付き合い方を考えよう
内容	友達とのトラブル対策 インターネットに書き込みをすること 使いすぎ(ネット依存への対策) 悪意のある人への対策

ふくしま高校生スマホ宣言を活用し、講義内容を構成した。インターネットの特性である公開性、記録性、信憑性、公共性、流出性について講義を行い、インターネットを利用する上で必要な情報を中心に講義を行った。

③ ワークシートの活用

第1回講義の内容をワークシートにまとめさせた(図9)。生徒Aは、「整理・分析」の部分で講義内容から「デジタルタトゥー」「タイムマネジメント」「インターネット」をキーワードとして選択し、「メールのデメリットをもつ

と調べてみたい」と次の学習へ意欲を高めている。

そして、「まとめ・表現」の部分で、生徒は「ルールを親と話し合い、そのルールを守り、メールの言葉に責任をもつ」と、これからの自分の行動について考えをまとめている。生徒から学習内容の報告を受けた保護者は「インターネットの使い方について、話し合うよいきっかけとなりました」とコメントを返している。このように、毎回のワークシートで、「課題の設定」から「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」まで、一連の学習のスパイラルが完結するようにした。

【ワークシート表面】

今日の目標：自分と情報機器とのつきあい方を考えよう！！

スマホ宣言

考えて 直接話す 大切さ
(メールばかりで直接話した方がい場合もあるということ)

いい写真 それは載せてもいい写真？
(インターネットに乗せて、だれにも見せようがないかということ)

MYスマホ 親に預けて NO! スマホ
(スマホに集中しすぎて、時間や夜道を休めない)

SNS 出会いの裏側 SOS
(SNSで知り合ったすべてがいいわけではない)

《講義メモ》

今は、みんなの時からインターネットで停っている。WHO→世界保健機構
「デジタルクレー」→生・消せない
「ネット依存」→ネット依存になると脳のさい切が死ぬ！
「ルールを決める」
「1日の時間を管理する(タイムマネジメント)」
「目をコントロールさせる」

1 講義の中で、心に残ったキーワードは何ですか？理由も記入してください。

<p>デジタルクレー インターネットでは、一生文字を消せないといいことで、人生を左右するとお話していたから。</p>	<p>タイムマネジメント これから、ちゃんと時間を管理しようと思ったから</p>	<p>インターネット インターネットには、メリットとデメリットどちらもあるということがよく知れたから</p>
--	--	--

2 本日の講義やキーワードから、興味を持ったこと、深く掘り下げて調べてみたいと思ったことは何ですか？

「LINE」などのメールでは、身ぶり手振りするのにくらべて、理解するのが難しいということが分かり、さらに、メールでのデメリットをもっと調べてみたいと思いました。

【ワークシート裏面】

3 これから自分がスマホやゲームとどのように関わっていくかを、できるだけ具体的に書きましょう。

メールのやりとりの割合を減らしてなるべく分かった。これから、ちゃんとインターネットの正しいルールを親と話し合いそのルールをちゃんと守り、メールの言葉に責任をもつ。スマホやゲームの良い所、悪い所をちゃんとわかっていきたいです。

4 本日の講義内容をお家の方にお話して、感想を書いてもらいましょう。

楽しいだけではなくSNSで遊ぶことを学び、インターネットの正しい方について話し合ういいきっかけとなりました。学んだことの1つ1つを確認しながら講義内容を話してくれました。責任を持ちながらの使い方を心がけることを確認しています。

図9 第1回講義ワークシート (生徒A)

(2) 第2回情報モラル講座

① 第1回ワークショップ

生徒にインターネットの問題を自分事としてとらえさせるために、ワークショップを情報モラル講座に取り入れ

た。

ワークショップでは、実際の行動選択場面を提示し、その判断には個人差があることを、体験を通して学ぶことができた。ワークショップ後の生徒の感想は、以下のとおりである。

「自分がいいこと」＝「相手もいい」というわけではない。自分はこうだと思っけていても相手に伝わらないこともある。つまり、一度考え直し、相手の立場に立つということが大事。

相手を意識し、相手の気持ちを考えることが大切であり、文字と文字とのコミュニケーションの難しさを自分事としてとらえることができている、ワークショップの有効性が確認できた。

② 第2回講義「人工知能・SNS・IoTがもたらす社会」

講義の目標と内容は、以下のとおりである。

目標 未来を予想し今を決定できる人になろう
 内容 人工知能がどのような状況にあるのか
 SNSの投稿でAIがどんどん賢くなる？
 モノのインターネット化 (IoT)
 セキュリティの重要性

生徒の視野を広げるために、人工知能の開発や人工知能とSNSとの関係、様々なモノがインターネットに接続されているIoTのことなど、既に訪れている技術革新についての講義を行った。生徒がこれから生きていく未来を予想することで、今何をすべきか考えさせ、さらに生徒それぞれの将来についても考えさせた。

(3) 第3回情報モラル講座

① 第2回ワークショップ

第2回講義の内容から、インターネットのサイトやアプリケーションソフトを利用した際に、画面に表示される言葉や指示は本当に信用できるのかなど、セキュリティを中心としたワークショップを行った。生徒は、インターネットには、信頼できない情報が溢れていることを体感し、行動選択をする際に生きて働く知識の定着を図った。

② 第3回講義「1台のスマホから」

講義の目標と内容は、以下のとおりである。

目標 自分で考え、自分で行動選択できる人になろう
 内容 スマートフォンの材料から見えるもの
 レアメタル
 スマホから見る世界的な問題
 スマホから見る身近な問題

第3回講義では、生徒の行動選択で必要となる知識をさらに広げるために、1台のスマホから見える、世界的な問題を取り上げ、講義を行った。行動選択するためには、近視眼的で、自分の半径数メートルだけの狭い視野では、行動選択が難しいのではないかと、さらに視野を広げて、世界的な視野で物事をとらえる必要があるのではないかと考

えた。講義終了後の生徒の感想に「紛争鉱物についてどのような解決方法があるのか調べてみたい」「生活を便利にすることと環境問題との関わりを調べてみたい」などの記述があり、視野の広がりが感じられた。

2 研究協力校の計画による取組

(1) 福島第四中学校

① 探究課題設定

主題である「課題解決能力・発信力を高める総合的な学習の時間」に沿って、各学級で3回の講座内容を基に探究課題が設定された。

調べ学習の内容は、以下のとおりである。

- 第1回の講座内容
「ネット依存について」「デジタルタトゥーについて」「SNSについて」等
- 第2回の講座内容
「ロボットが働くホテルについて」「ビッグデータについて」「IoTと人工知能について」等
- 第3回の講座内容
「人権侵害について」「レアメタルについて」「紛争鉱物について」等

② 中高連携事業

隣接する福島高等学校の生徒から、調べ学習を進めるポイントについてアドバイスを受けた。生徒は、情報の集め方や情報のまとめ方、よりよく伝えるための方法、プレゼンテーションの仕方などについて学び、自ら設定した課題の解決に向かって、レポート制作に取り組んだ。

③ 夏休みの課題

生徒は、3回の講座と高校生のアドバイスを基に、夏休みの課題として、探究課題についてのレポートを完成させた。レポート制作に取り組むことで、単元構想にある一連の学習のスパイラルが繰り返され、「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の活動に繰り返し取り組むこととなり、調べ学習により収集した情報が、さらに整理されたと考えられる。

④ 情報モラル課題解決学習発表会に向けた取組（フリップ制作）

情報モラル課題解決学習発表会を単元の最終的な「まとめ・表現」の場として設定した。発表会で使用するフリップ制作は、グループでの協働学習とした。生徒一人一人が制作した

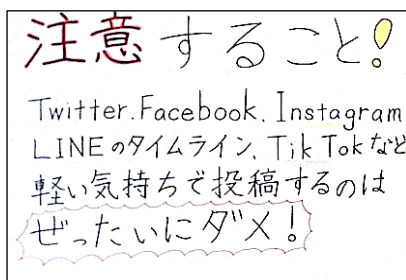


図10 制作したフリップ

レポートを基に、分かりやすく伝えることを視点に検討を行った。グループでの協働学習では、文字の大きさやフリ

ップ1枚の情報量、内容について検討した（図10）。小学生に分かりやすく伝えるためのフリップを目指して、話し合い活動を重ねることで、「まとめ・表現」の活動の質が高まり言葉が精選され、理解が深まったと考えられる。

⑤ 情報モラル課題解決学習発表会

小学生を対象に作成したフリップを使用して、ポスターセッション形式で学習内容の成果を発表した。聞き手の興味・関心を高めるために、分かりやすく伝えようとする姿が見られた。また、クイズ形式で発表に参加させたり、質問に答えたり、ポスターセッションならではの双方向のやりとりを通して、小学生の理解につなげることができた。また、小学生に配慮した発表を心がけることで内容が整理され、自ら設定した探究課題について理解を深めることができたのではないかと考えられる。

⑥ 小学生の感想

情報モラル課題解決学習発表会に参加した小学生の感想は、以下のとおりである。

- メリット・デメリットをまとめていて、とても分かりやすかったです。
- 一度炎上してしまうと、取り返しがつかない事態が起きてしまう。ツイッターを使用するとき個人情報をのせない。
- もし、ネットを利用するなら、時間をしっかり決めて周りの人に迷惑をかけないようにしたい。

「とても分かりやすかった」「ツイッターには個人情報をのせない」といった記述から、発表会の内容を理解し、今後のインターネット利用について考えられたことがうかがえる。生徒が精選した伝えたい内容が、児童の感想に述べられていることから「まとめ・表現」の活動の質が高まり、表現力の向上につながったと考えられる。

(2) 石川中学校

① 探究課題設定

小学生のための情報モラル教室を単元の最終的な「まとめ・表現」の場として設定した。各学級で第1回情報モラル講座の内容を基に探究課題を設定し、生活班ごとに、レポート作成に取り組んだ。

調べ学習の内容は、以下のとおりである。

- 「ネット依存の危険性について」
- 「個人情報の管理について」
- 「炎上について」
- 「デジタルタトゥーについて」
- 「SNSでのコミュニケーションについて」
- 「正しく、安全に使用するためのルールについて」等

② 夏休みの課題

生徒は、レポートの制作を通して、情報モラルについての学習内容を振り返り、さらに調べてみたい内容や小学生に伝えたい内容を整理し、レポートにまとめた。

③ 小学生のための情報モラル教室に向けた取組（ポス

ター制作)

情報モラル教室に向けた取組は、教科横断的に行われた。技術・家庭科(技術分野)では、「情報とコンピュータ」の単元において、コンピュータを活用してポスター制作のための情報を収集した。また、国語科では、「ポスターセッション」を扱う単元において情報モラルを題材としたポスター制作に取り組んだ。国語科でポスターを制作したことで、ポスターの構成や文字の大きさ、伝える内容の精選ができ、国語科の目標に即したポスターを制作することができた。また、発表のための練習にも取り組んだ。小学生に分かりやすく伝えるためのポスターを目指して、グループで内容の検討を重ねることで、情報モラル教室の内容が精選され、理解も深まったと考えられる(図11)。

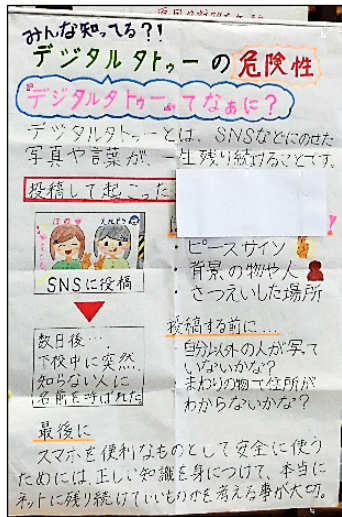


図11 制作したポスター

④ 小学生のための情報モラル教室

技術分野や国語科での学びを基に、総合的な学習の時間の中で、情報モラルをテーマとしたポスターセッションを行った。まず、各班の代表が小学生の興味・関心を喚起するため、アピールポイントを発表した。その後、班ごとに行ったポスターセッションでは、ワークショップ形式を取り入れたり、四コマ漫画を寸劇で表現したり、Q&Aコーナーを設けたり、表現内容が多岐にわたり、様々な工夫が見られた。教科横断的に国語科の授業で発表の練習を重ねたことで、教科のねらいに即したプレゼンテーション能力の向上が図られたと考えられる。

⑤ 小学生の感想

小学生のための情報モラル教室に参加した小学生の感想は、以下のとおりである。

- 今日の情報モラル教室では、LINEや、SNSはいろいろな危険があるんだと分かりました。どこのグループも、クイズや質問をまじえて発表したり、グラフや表を使って説明していて、とても分かりやすかったです。
- 前半と後半にわかれて、中学生の発表を聞きました。その中で、私はどの班も分かりやすく説明してくれたり、質問に答えてくれたり、すぐに納得しました。
- 発表を聞いてこれからは、パスワードを暗号にしようと思いました。中学生の教えてくれたことを、これからの生活に生かしていきたいです。

「ポスターが分かりやすかった」「分かりやすい説明だっ

た」「これからの生活に生かしたい」といった記述から、情報モラル教室でのプレゼンテーションの内容を理解したことがうかがえる。国語科の専門性が生かされ、生徒の表現力の向上につながったと考えられる。

3 実践のまとめ

(1) イメージマップ

実践後に再度イメージマップを作成させ、実践後の言葉の数と内容について比較した。

① イメージマップにおける言葉の数の変容

生徒の言葉の数は全体的に確実に増加している。研究協力校での平均値の比較から、それぞれの学校でイメージマップに書かれた言葉について数の増加が確認できた(図12)。様々な角度からの内容で、講義を行ったことで、インターネット利用に関する知識が増え、定着したと考えられる。

	実践前	実践後
福島四中・平均	14.3個	24.5個
石川中・平均	12.1個	19.6個

図12 イメージマップに書かれた言葉の数の変容

② イメージマップにおける内容の変容

次に、イメージマップに記述された言葉の内容について比較した。

生徒Bのイメージマップでは、小さい、ゲーム、便利などの記述だったものが、デジタルタトゥーやゲーム障害、人工知能、レアメタルなど3回の講義で獲得した知識が系統立てて記述されていることから、学習した内容が整理されて定着したと考えられる(図13)。

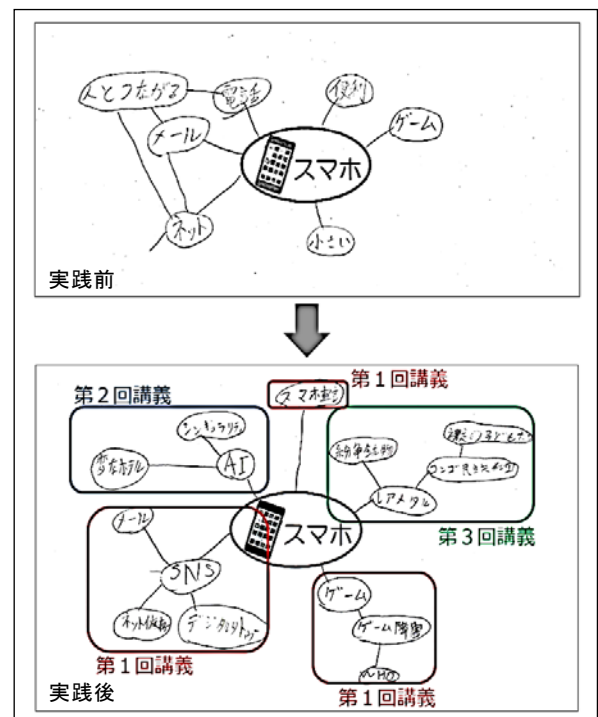


図13 イメージマップの比較(生徒B)

生徒Cのイメージマップを実践前後で比較すると、一つ

両校とも過剰使用の割合が、全国平均より低い数値であり、中でも第1学年の数値が最も低くなっている(図17)。第1学年の生徒は、インターネット利用の経験が浅いことも考えられ、一概には言えないが、振り返りシートに見られた利用時間についての意識の高まりが数値として表れたと考えられる。

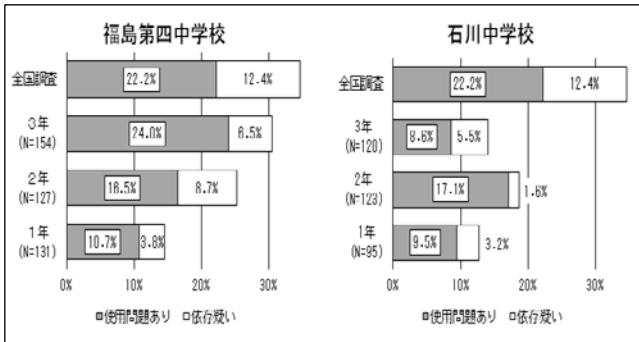


図17 インターネット過剰使用の割合

(4) 保護者との連携

情報モラルの指導を効果的に進めるためには、保護者との連携が重要である。本研究では学習内容の振り返りと定着を図る意図から、生徒が学習内容を保護者に伝え、コメントを書いてもらう活動を繰り返し取り入れた。これにより、生徒と保護者がインターネット利用について、共に学び考える時間を確保することができた。以下の保護者の感想からも、生徒と保護者が共に学び考えた様子が見えてくる。

- ネットは便利ですが、相手の顔が見えないだけに、色々な問題が起こりやすく怖い部分もやはりたくさんあり、心配なところがあります。親子で考えながら使いたいです。
- 今回の講義の内容を説明され、とてもよく理解したことが分かりました。ID、パスワードの管理など、とても親として勉強になることがあり、子どもから教わりました。
- ネットでのあやしいサイトと安全なサイトを見分けるのが、とても難しくなっていて危険だなあと感じました。あやしいと感じることがとても大切だと思います。

学校と保護者が両輪となって、生徒の情報モラルを向上させていくためには、生徒の学びに保護者を参加させる学校側からの働きかけ、仕掛けが必要であると考えます。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 総合的な学習の時間における情報モラル教育

情報モラルを総合的な学習の時間における探究課題に設定し、「課題の設定」から「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」まで、生徒自ら主体的に学び、発信する学習活動を展開することで、生徒のスマートフォンやイン

ターネットを使用する際の行動選択に必要な知識の定着やそれに伴う行動変容を見取ることができた。総合的な学習の時間に情報モラルを探究課題として扱うことの意義と効果が確認できた。

(2) カリキュラムの自校化

情報モラルを総合的な学習の時間の探究課題として設定したことが、生徒の行動変容につながったことを、各学校が研究の成果としてとらえ、今年度の取組を次年度の教育課程の編成に反映することができた。

(3) 地域、保護者との連携

インターネット利用における生徒の行動変容を促すには、学校だけの取組で完結するものではない。インターネットを使用する際の行動選択は、社会的な問題である面も踏まえ、学校、地域、保護者との連携を研究の手だてとしたことで、情報モラル教育について地域間での共通認識を図ることができた。また、小学校と中学校の連携、中学校と高等学校の連携、中学校と家庭との連携、それぞれの連携の過程で学習内容を数多く振り返らせることで、インターネット利用に関する生徒の知識の定着や行動変容へとつながることができた。

2 今後の課題

本研究を継続するには、変化の激しい情報社会の最新情報を入手し、生徒に新たな気付きを促す触発型の授業をいかに継続するかが課題となる。当センターとして、情報社会の最新情報を常に発信できるよう情報収集に努め、情報モラル教育に有益な情報を教育センターのWebサイトを通じて発信する取組が必要である。

<参考・引用文献>

- 1) 中学校学習指導要領(平成29年告示)
(文部科学省 2017年)
- 2) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間編
(文部科学省 2017年)
- 3) 研究紀要第45集 (福島県教育センター 2015年)
- 4) 研究紀要第46集 (福島県教育センター 2016年)
- 5) 心と体を蝕む「ネット依存」から子どもたちをどう守るのか 樋口進 (ミネルヴァ出版 2017年)
- 6) 情報セキュリティ教材「ネットのあやしいを見きわめよう」
<https://kasperskylabs.jp/activity/csr/teachingmaterial/>
- 7) 情報モラル教育教材「SNSノート(情報モラル編)」
<https://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2018/190>
- 8) 平成28年度「福島県の情報教育の実態等に関する調査」結果
(福島県教育センター 2016年)
- 9) 平成29年度「福島県の情報教育の実態等に関する調査」結果
(福島県教育センター 2017年)
- 10) 平成30年度「福島県の情報教育の実態等に関する調査」結果
(福島県教育センター 2018年)